ALVENTO
Aluminum High Performance Design Products

ALVENTO® AR

棚板サイズは500W×500mm、1段から5段までパーツ単位で販売
【参考価格（税別）】AR-1（1段）＝¥216,000、AR-2（2段）＝¥401,000、AR-3（3段）＝¥554,000、AR-4（4段）＝¥711,000、AR-5（5段）＝¥903,000

これほどリファレンスとしてふさわしいラックは存在しない

“メイド・イン・ジャパン”の新星ブランド、ALVENTO（アルベント）のオーディオラックがついに本格発売を開始した。今号の特集でも1段式の「AR-1」を井上千岳氏が、3段式の「AR-3」を小原由夫氏がレポートしている。他社製モデルと比較してみて、ALVENTOの製品がどんな実力を備えているのか?こちらの記事も参照してほしい。本項ではその小原由夫氏が再び登場する。というのも実は同氏は昨年、5段式の「AR-5」を自宅リスニングルームに導入しているのだ。そこで、ALVENTOのオーディオラックの魅力を伝えるべく、その導入の経緯から、自宅試聴室でどんな効果を発揮したのか等々、その導入記をお届けすることにしよう。

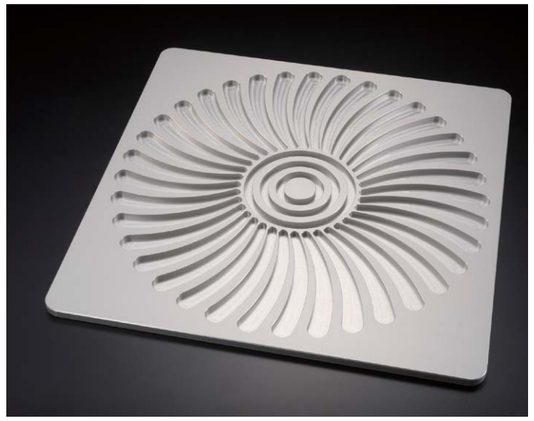
Text by
小原由夫
Yoshio Obara

ラックの概念を覆す存在 切削技術にも目を奪われた

正直に白状すれば、私はこれまでオーディオラックに対して、他のコンポーネントと同じような情熱と注意をはらって接していなかったに等しい。それが昨年、衝撃的な体験をして以来覆った。これまでの既成概念をすっかり捨てねばならないくらいの経験を、とあるラックでしたのである。

それは富山県黒部市にあるカナヤママシナリーというメーカーが製作した「ARVENTO」というオール・アルミ合金製ラックだ。「カナヤママシナリー? 聞き慣れない会社名だなぁ?」というのが、嘘偽りのない最初の気持ち。しかし、目に留まった本誌広告のラックの写真を見て、これは凄いと思ったのである。ALVENTO「ARシリーズ」ラックの棚板裏面に施された、オウム貝を彷彿させる螺旋状／同心円の切削加工に目を奪われたのだ。

カナヤママシナリーは、昭和28年創業という老舗の金属機械加工メーカー。1台数億円するドイツ製の金属加工装置を数台備え、半導体や液晶の製造装置のほか、高機能な車椅子なども独自に開発・製造している。同社の金山宏明社長が無類のオーディオ好きで、趣味が高じて自前の工作機械を活用してラックを作ってしまったのである。元より黒部、ひいては富山を含む北陸一帯は、地場産業として金属産業有数の地。金山社長のDNAが騒いだのだろう。



最大の特徴であるARボード。棚板の裏面にあたる部分に独自のスリットを彫刻。これによりアンプの熱を吸収・拡散するだけでなく、振動対策にも効果を発揮する

振動だけでなく熱も逃がす 電磁波対策も実現できる

ALVENTOラックを生み出す工作機械は、5軸の最新鋭切削マシン。複雑かつ高精度の加工がプログラムによって実行される。前記のオウム貝のような加工は、平らな面に対して1・5倍の表面積を確保することができ、それがオーディオ機器が発する熱を効率よく吸収・拡散し、ラック内の温度を適性に保つことができるという。非磁性体金属の中でも熱伝導に優れるアルミのメリットを活かしつつ、電磁波対策も期待できて一石二鳥というわけだ。

単一金属の使用は、固有の共振周波数が発生するので、何らかの異種材料を組合せるのが古くからのオーディオのセオリー。それは鉄則といってもいいかもしれない。しかし、金山社長はそれを重々承知の上で、構造面の工夫と高い工作精度でその課題を克服すると共に、アルミニウムならではの特徴をメリットとして積極的に推し進め、ALVENTOラックを完成させたのだ。

4段からさらに1段を増設 急所や弱点も暴いてしまう

たまたま代理店を請け負っていたのが業界の親しい友人で、デモ機を快く貸してくれたこともあり、昨年の春に自宅で1週間ほどテストしたのだが、高S／Nに裏打ちされた静けさと鋭い分解能、圧倒的に見通しのよいステレオイメージの再現に驚嘆。早速導入を決意したのである。

堅牢な造りでありながら、ALVENTO・ARシリーズは視覚的な美しさも兼ね備えている。エッジ（角）の処理を含めた表面の仕上げ、組み上げた際の全体的なフォルムは素晴らしい。表面がピカピカでなく、半艶っぽい梨地仕上げであることも高級感につながっている。先頃、当初の完成品販売から、フレームと棚板、インシュレーター等が個別に購入できる形態となり、使用機器の数や具合に応じて自由にセットアップできるようになった。また、企業努力によって価格が当初より抑えられた点も喜ばしい。

拙宅は当初4段であったが、1m長のフレームに交換して棚板を増設し、5段とした。現在は上から順にSACD／CDプレーヤー、ネットワークトランスポート、UHDブルーレイプレーヤー、AVアンプ、マルチチャンネル・パワーアンプが設置されている。

ALVENTO・ARシリーズのセールスポイントは、機材の持味や個性を引き出してくれる一方で、急所や弱点を容赦なく暴いてしまうところにある。つまり、優れた機器であれば、ダイナミックなエネルギー感やどこまでも澄み切った音場感を展開してくれるが、設置された機材のウィークポイントをオブラートで包み隠すようなことはせず、ストレートに再現してしまうのだ。曖昧なところが微塵もない、いい意味で冷徹な分析力を持つラックなのである。まるで道を究めた剣豪のような潔さだ。

真にこれほどリファレンスとしてふさわしいラックはないというのが私の認識であり、寄せる大いなる信頼でもある。

筆者宅に設置された5段仕様の「AR-5」

ALVENTOのオーディオラック
ARシリーズの詳細はこちらから

■問い合わせ先：ALVENTO　〒930-0801　富山県黒部市萩生1506-4　カナヤママシナリー株式会社　萩生第二工場
TEL：0765-57-3888　FAX：0765-57-3266　ホームページ：https://www.alvento.jp/